

川崎市聴覚障害者情報文化センターだより

新年度のご挨拶

昨年度は当センターの事業に対して、様々なご支援を賜り、ありがとうございました。

特に、川崎市登録手話通訳者・川崎市登録要約筆記者の皆さまには感染リスクを感じながらも派遣事業に多大なご協力を賜りました。この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

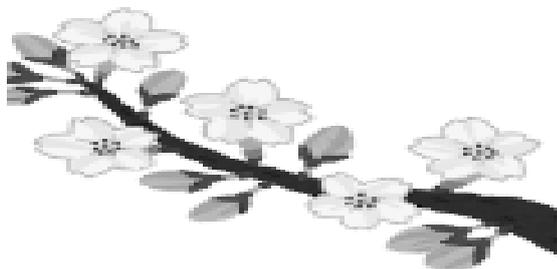
昨年度は第4期指定管理料の増額により大きな変化のあった年でありました。

1. 要約筆記派遣コーディネーター、ICT支援・施設管理員(令和3年3月まではビデオ・施設担当職員)を正職員に転換しました。
2. 新型コロナウイルス感染防止等のために遠隔通訳システムを導入しました。
3. 手話通訳による「遠隔機器コミュニケーション支援事業(聴覚障害者が各区役所・支所の窓口等で職員とコミュニケーションを図るときに、タブレットを通じて当センター職員による手話通訳を利用する事業)」においても運用方法を改善しました。具体的には、区役所・支所内の様々な窓口にQRコードを設置し、区役所に配備してあるタブレット端末等を使ってQRコードを読み取ると遠隔手話通訳を利用することができるようになりました。
4. 電話リレーサービス、遠隔通訳、NET119等のICTを活用する力を獲得するために、聴覚障害者対象のICT講座を行いました。
5. 新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場等において事前予約なしで遠隔手話通訳を利用することができるようにしました。
6. オンライン相談を試行的に導入しました(令和4年度より本実施)。
7. 「川崎市登録手話通訳者派遣事業」「川崎市緊急手話通訳者派遣事業」「川崎市登録要約筆記者派遣事業」の要綱が改訂され(令和4年4月1日施行)、登録者が自宅等で遠隔手話通訳・遠隔要約筆記を行った場合、機器使用料として1回500円、通信費として1回200円を支払うことになりました。

以上のように、ICT関係の諸々の事業等が激増した1年間でありました。

今後も引き続き、ICT関係の諸々の対応ができるよう川崎市行政をはじめ、当事者団体、関係団体等と緊密な連携を図りながら進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

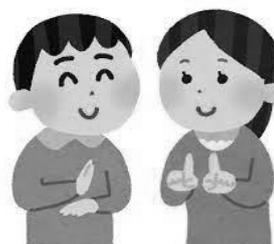
施設長 尾上秀夫



聴覚障害者福祉講座実施報告

1月22日(土)に聴覚障害者福祉講座を開催しました。密を避けるために、オンライン開催とし、YouTube で生配信しました。今回のテーマは、「川崎の手話」について。「川崎の手話」制作実行委員会のお2人による講演で、川崎市内の地域名や固有名詞の手話表現をイラストで掲載した小冊子についてご説明いただきました。制作のきっかけや、苦労話などの他、冊子に記載されているQRコード(スマホで手話動画を見ることができます)の読み込み方についての具体的なレクチャーもありました。

手話サークル活動などの地域活動がコロナ禍でなかなか以前のようににはできない現状がありますが、この講座や冊子、動画を通して少しでも手話に触れていただき、興味を持っていただけたらと思います。



補聴器とコミュニケーションの講座実施報告

2月に川崎市国際交流センターレセプションルームにて補聴器とコミュニケーションの講座を開催しました。

定員の50名を超える申し込みがありました。途中でキャンセルする方もいて、全体で45名でスタートしました。しかし、オミクロン株の感染拡大のため、まん延防止等重点措置が出ている時期なので出席を見合わせる方もいました。

第1回の補聴器講座については、Zoomを利用し、講師の講義を聞きました。全部で4回の講座ですが、残念ながら積雪の予報が出たため第2回の2月10日は中止となりました。

欠席の方には、当日の配布資料を送ります。「資料だけでも参考になった。」と連絡をくださる方もいました。

最終回には感想用紙に記入していただきます。「途中で難聴になり、うつになりかけましたが、前向きに人生を歩む手本になる方がいました。」と講座をサポートする、特定非営利活動法人川崎市中途失聴・難聴者協会のスタッフの存在が参加した難聴者を勇気づける場面もあったようです。

講座に皆勤された方に、修了証を渡します。今回は21名の方に渡すことができました。

今年度は、宮前区、中原区、幸区で開催予定です。



ICT講座実施報告

2月5日(土)、第3回 ICT講座を開催しました。

前半は、電話リレーサービスを実際に活用されている方お2人をお招きし、体験談をお聞きしました。電話を使うことで、今知りたいことがすぐに分かったり、不安が早く解消できたり…といった例をいくつもお聞きすることができました。生活の中のちょっとした確認・連絡にも電話を使われているお2人の体験談をお聞きして、皆さん電話を身近に感じられたのではないのでしょうか。

後半は、参加者1人1人に通話体験をしてもらいました。今回参加してくださった7名は、電話リレーサービスを使ったことのない方ばかりで、みなさん初めての体験でした。川崎市内の施設や関係者の名前と電話番号が記載された「ミッションカード」を使って、電話での問い合わせにチャレンジしました。

情報機器の利用は、実際体験してみないと分からないことがたくさんあります。昨年度のICT講座は、「体験して便利さを実感していただくこと」に重点をおいて開催してきました。今年度も引き続き、「体験できる場」

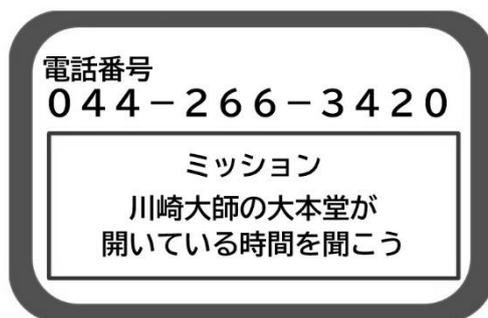
「分からないことを聞ける場」として、ICT講座を活用していただければと思っています。

当日ご協力いただきました、特定非営利活動法人川崎市ろう者協会、川崎市登録手話通訳者団の皆さん、ありがとうございました。

表



裏



電話リレーサービス学習会協力報告

2月13日(日)、横浜ラポールにて電話リレーサービス学習会が開催されました。(主催:一般財団法人日本財団 電話リレーサービス 協力:神奈川県聴覚障害者連盟・県内3聴覚障害者情報提供施設)当日は、一般財団法人日本財団電話リレーサービスのの上嶋太氏に電話リレーサービスの仕組みについてご説明いただき、利用時のマナーを学んだり、デモを見せていただいたりと、盛りだくさんの内容でした。登録希望者に対し、マンツーマンでの操作支援も行いました。

電話リレーサービスは、昨年7月に始まった公共インフラです。宅配便の再配達依頼やクレジットカードの紛失連絡などの他、学校・塾・店舗などからの着信も受けることができる大変便利なサービスです。詳しく説明を聞いてみたい方や登録を希望される方、利用中でお困りの方などいらっしゃいましたら、遠慮なく当センターICT支援員までご連絡いただければと思います。



備えるフェスタ2022出展報告

2月19日(土)ラゾーナ川崎プラザで開催された「備えるフェスタ2022」に、川崎市聴覚障害者災害対策委員会のメンバーで参加しました。

昨年はコロナ禍のため、急遽オンラインとなり、参加はかないませんでした。今年は感染対策を取ったうえで、参加できることになりました。

ブースに来てくださったお客様に、手話や筆談で聴覚障害者とのコミュニケーションを体験してもらい、「災害時に、もしあなたの近くに聴覚障害者がいたら、見て分かる方法で伝えて欲しい」とお願いしました。ブースに来られるお客様は、老若男女。家族連れの方も多く、小さなお子様はすぐに手話をまねていました。短時間の交流ですが、このような取り組みを積み重ねていくことが、相互理解を広めていくものと考えています。



現任研修実施報告

手話通訳者

1月28日(金)、一般社団法人全国手話通訳問題研究会理事で国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科非常勤講師の宮澤典子氏を講師に迎え、「通訳現場における調整力について」というテーマで研修を行いました。言語翻訳という技術を使い、場を共有する人がその場に参加するために手話通訳者は何に気をつけ、判断・行動する必要があるのか。1つのシチュエーションでも、場面や状況、ろう者・聴者の様子に合わせて、こうしたり、ああしたり。実際、手話や日本語でどう表出するか例示もあり、現場で柔軟に選択する考えを学びました。

3月11日(金)は「事例検討」を行いました。手話通訳依頼書と業務報告書を使用し、医療場面の事例を取り上げました。オンラインでの研修でしたが、小グループでのディスカッションに時間をかけ、各グループで活発な議論となりました。各人が現場で行動に結びつける考えの核を持てるよう、今年度も継続して考え、深めていきたいと思えます。

要約筆記者

令和3年度川崎市登録要約筆記者現任研修(センター担当)を1月から3月にかけて3回実施しました。コロナ禍ということもあり、当センター研修室参集とZoomによるハイブリッド形式にて開催しました。

難聴者の自立を支える対人援助とは？(1月12日)

北陸学院大学教授 勝谷紀子先生より、「難聴の特徴(高齢者に焦点を当てて)」、「難聴と認知症との関係」、「聞こえにくさへの対処と自立支援」の順に講義していただいた後、「コロナ後をみすえた要約筆記の活躍のあり方」をテーマに当センター職員も交えてグループディスカッションを行いました。

講義では「高齢の難聴者が抱える心理的問題」、「難聴と認知症についての医学的仮説」などが紹介された後、「ソーシャルサポートを受けることで聞こえの自己評価は低くてもうつ病の程度が高くなる」と適切なコミュニケーションサポートの重要性を学ぶことができました。

グループディスカッションでは、コロナ後もZoomの活用は残るとしても対人援助であることは同じであるなど活発な意見が交わされました。

電話リレーサービス(2月2日)

日本財団電話リレーサービスカスタマーセンター上嶋太氏をお迎えし、電話リレーサービスが導入されるまでの道筋から、電話リレーサービスの仕組みと利用状況、マナーと課題まで動画も交えながら分かりやすくご講義をいただきました。

公共インフラとして聴覚障害者も電話ができるといっても、架電できない番号があることや本人確認が認められないケースがあること。相手(聴者)からの質問に聴覚障害の利用者が「大丈夫です」と入力すると文字オペレーターは何が大丈夫なのか分からず困ることなどがとても印象に残りました。

初歩的なところから課題までと盛りだくさんであったという間でしたが、今後利用が増えることを考えてもとても有意義な研修となりました。

難聴者の受援力と難聴者の自立を支える要約筆記(3月3日)

一般財団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 要約筆記部長 宇田川芳江氏をお迎えして、前半は講義、後半は事例検討が行われました。

講義では要約筆記者の養成目標や要約筆記者養成テキスト第13講「対人援助技術」の内容を復習し、事例検討では指名された方が事例を読み上げ、宇田川氏が「あなたならどう思いますか？」と問いかける形で進められました。悩みながら回答された後の宇田川氏からのアドバイスに「うんうん」と大きく頷く様子がZoom越しでも伝わりました。「現場で迷っても要約筆記者としてブレない立ち位置を持つこと。それが川崎の要約筆記派遣事業のレベルを上げることになる。」と大きなエールをいただき、派遣元としても身の引き締まる思いをしました。

今後も通訳現場や当センターでお会いすることの多い方々を想いながら研修で学んだことを活かしていただきたいと思います。



養成講座実施報告

養成講座実施にあたり、特定非営利活動法人川崎市ろう者協会、川崎市登録手話通訳者団から実技講師のご協力をいただきました。

手話通訳者養成講座 通訳Ⅰ・Ⅱ

令和3年度手話通訳者養成講座<通訳Ⅰ><通訳Ⅱ>の講座が閉講しました。

通訳Ⅰは、7月3日～令和4年3月5日、全28回。13名全員が修了しました。

通訳Ⅱは、5月8日～12月11日、全26回。12名の受講者のうち、再受講者は4名。新規受講者7名の方が修了証を手に入れました。

それぞれの講座は、厚生労働省カリキュラムの基本課程と応用課程にあたります。今回の修了をひとつの区切りとして、川崎市登録手話通訳者を目指し今後も学習を続けていただきたいと思います。

今年度の講座は、当センターホームページ等で順次ご案内します。

手話奉仕員養成講座 基礎編

昨年度の手話奉仕員養成講座は入門編・基礎編を通年で学ぶ新たな形で実施しました。令和3年5月15日に開講した講座は先日3月12日に最終日を迎え、修了者は10名でした。ろう講師との会話から手話を学ぶスタイルで、ろう者の話が少しずつわかるようになってきたところでの閉講。惜しむ声も聞かれました。講義はZoomも使用するなど、他の講座同様、感染対策を取りながら実施しました。

今年度も今のような状況が続きそうですが、多くの方が継続して手話学習に取り組めるよう努めます。

統一試験結果報告

手話通訳者全国統一試験

昨年12月4日(土)、当センターを会場として「手話通訳者全国統一試験」を実施しました。川崎市の合格者は2名です。新型コロナウイルスの影響が続き、依然学習機会が少ない中で試験に臨まれた受験者の皆さま、本当におつかれさまでした。また、感染対策を取りながらの養成講座等にご協力いただきました、特定非営利活動法人川崎市ろう者協会、川崎市登録手話通訳者団の皆さま、ありがとうございました。



全国統一要約筆記者認定試験

昨年5月に開始した、要約筆記者養成講座が2月4日(金)に終了し、修了をされた方は、その集大成として試験に臨みます。その全国統一要約筆記者認定試験が2月20日(日)に実施されました。手書き8名、パソコン5名、計13名の受験申し込みをしましたが、体調不良等で4名が欠席となりました。

結果は手書き3名、パソコン1名の合格でした。合格された方は、今後新登録者研修、頸肩腕健診などを経て、派遣活動をしていただきます。新しく仲間に加わった、新登録者の活躍を期待します。

また、残念ながら合格ができなかった方も今年度の受験資格はあります。ぜひ、難聴者の活動を支援参加しながら、モチベーションを持ち続けていただきたいと思います。

ビデオライブラリーからのお知らせ

当センターのビデオライブラリーを利用したことはありますか？

字幕・手話付きビデオ、聴覚障害に関するDVDなどがあり、川崎市に在住・在勤・在学の方であれば、どなたでも借りることができます。(聴覚障害者だけが借りられる字幕・手話付きビデオもあります。)

借りたい方はカードを発行しますので、本人確認書類をお持ちの上、当センター受付にお申し出ください。

貸出し本数:1回につき3本

貸出し期間:2週間(コロナ禍のため、貸出期間を延長しています)

【最新情報】

4月に配架されたDVDの一部を紹介します。

□「手話 この魅力あることば」 1～50巻

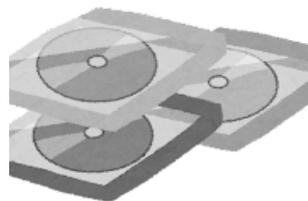
一般社団法人全国手話通訳問題研究会の研究誌「手話通訳問題研究」掲載されている連続写真を映像化したものです。日本各地のろう者の魅力的な手話語りが収録されています。(日本語訳の小冊子付き)

□「手話通訳レッスン初心者コース」 全15巻

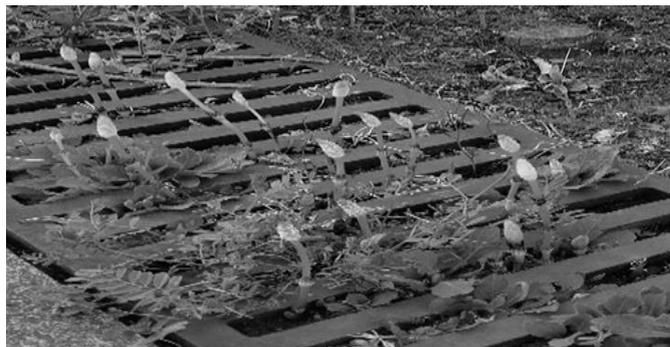
一般社団法人全国手話通訳問題研究会が発行しているDVDです。さまざまな通訳の場面を設定し、その通訳例を場面ごとに収録しています。ワンポイントアドバイスや手話通訳をめざす皆さんへのメッセージもあります。(日本語訳の小冊子付き)

□「聞こえなかったあの日」「ともだちやめた」

ろう者の映画監督、今村彩子さんの最新作品2本です。「聞こえなかったあの日」は、2013年に『架け橋 きこえなかった 3.11』を発表した監督が、その後の10年を記録した作品です。当センターでは今村監督の他の作品も借りることができます。



センターで「つくし」を見つけました。
寒い冬が終わり春がやってきましたね。
つくしの花言葉には、「向上心」「意外」
「努力」「驚き」などがあるそうです。



ビデオ通信 81



●貸出ベスト5

(2022年1月1日から3月31日現在)

順位	ジャンル別	本数
1位	センター制作分	25本

※他のジャンルの貸出しはありませんでした。

●年間貸出ベスト3

(2021年4月1日から2022年3月31日)

順位	ジャンル別	本数
1位	センター制作分	129本
2位	手話学習	13本
3位	映画・ドラマ	8本

●データ紹介

	1月	2月	3月	合計
来所者数	718	557	553	1,828
ビデオ貸出数	9	11	15	25

★ こちらもご活用ください ★

ホームページ

<http://www.joubun.net/>

Twitter(ツイッター)

<https://twitter.com/DKawasakiJoubun>

公式LINE ID

@361knuro



左のQRコードを読み取ると友だち追加ができます

<休館日のお知らせ>

休館日は毎週月曜日と祝祭日です。月曜日が祝祭日の場合は、翌日の火曜日も休みとなります。(■休館日)

2022年4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2022年5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2022年6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

※6月5日 全館清掃(休館)

2022年7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※当センターに駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用下さい。

川崎市聴覚障害者情報文化センター



川崎市聴覚障害者情報文化センター

代表 (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8805

〒211-0037 川崎市中原区井田三舞町14-16

(交通機関 / 東急東横線 元住吉駅下車徒歩10分)

(部屋の貸出等管理) (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8805
 (ろうあ者相談・難聴者相談) (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8804
 (手話通訳・要約筆記派遣) (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8803